



様式第8号（第5条関係）

令和2年1月27日

南相馬市議会議長

会派名 志政会

代表者氏名 鈴木 昌一



調査研究実施計画書

1 期間 令和2年2月7日(金)

2 調査研究事項及び旅行先

① 回復期リハビリテーション病棟について

(旅行先：福島県三春町)

② 院内緩和ケア病床について

(旅行先：福島県郡山市)

③

(旅行先：)

詳細は、別紙1のとおり

3 参加者 ① 鈴木 昌一

② 岡崎 義典

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

4 旅行行程 別紙2のとおり

別紙1

調査研究内容

月日	令和2年2月7日(金)
旅行先	福島県郡山市(坪井病院)、三春町(三春病院)
調査研究事項	院内緩和ケア病床について
〔内容〕南相馬市立総合病院は病床再編計画に基づき、令和2年度中に50床の回復期リハビリテーション病床を。令和3年度中に20床の緩和ケア病床を設置します。 そこで、同じ県内で回復期リハビリテーション病棟を持つ三春町立三春病院と、緩和ケア病床を持つ郡山市の坪井病院の現状を視察し、設置にあたって注意すべき点などを調査する。 三春町立三春病院は、平成19年に郡山の星総合病院が指定管理者となり、平成20年から40床の回復期リハビリテーション病棟をはじめました。回復期リハビリテーション病棟は、脳卒中などの脳血管疾患や、大腿骨などの骨折、外傷などによって脳や脊髄を損傷された方などへ、日常生活活動(ADL)の改善を目的としたリハビリテーションを集中的に行う病棟のことで、脳卒中センターを有する本市としては有効なものとなり得ます。 また、郡山の坪井病院については、昨年10月に山形県立中央病院の緩和ケア病棟を視察した際に、同じ病院内に緩和ケア病床をつくるのであればぜひ坪井病院に行くべきとの助言をいただきました。坪井病院は、治療からリハビリ、緩和ケアまでを備える地域がん診療連携拠点病院です。 その中でも緩和ケアについては、緩和ケア専門医、緩和ケア認定看護師、各病棟看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、作業療法士、管理栄養士、事務担当で緩和ケアチームを結成し、患者を苦痛から解放するため症状や気持ちを緩和する。	

別紙2

旅行行程

行程		宿泊地
1日目 2 / 7	8 : 30～10 : 00 南相馬市→三春病院	
	10 : 00～12 : 00 三春病院視察	
	13 : 00～14 : 00 三春病院→坪井病院	
	14 : 00～16 : 00 坪井病院視察	
	16 : 00～18 : 00 坪井病院→南相馬市	
2日目 ／		
3日目 ／		
4日目 ／		